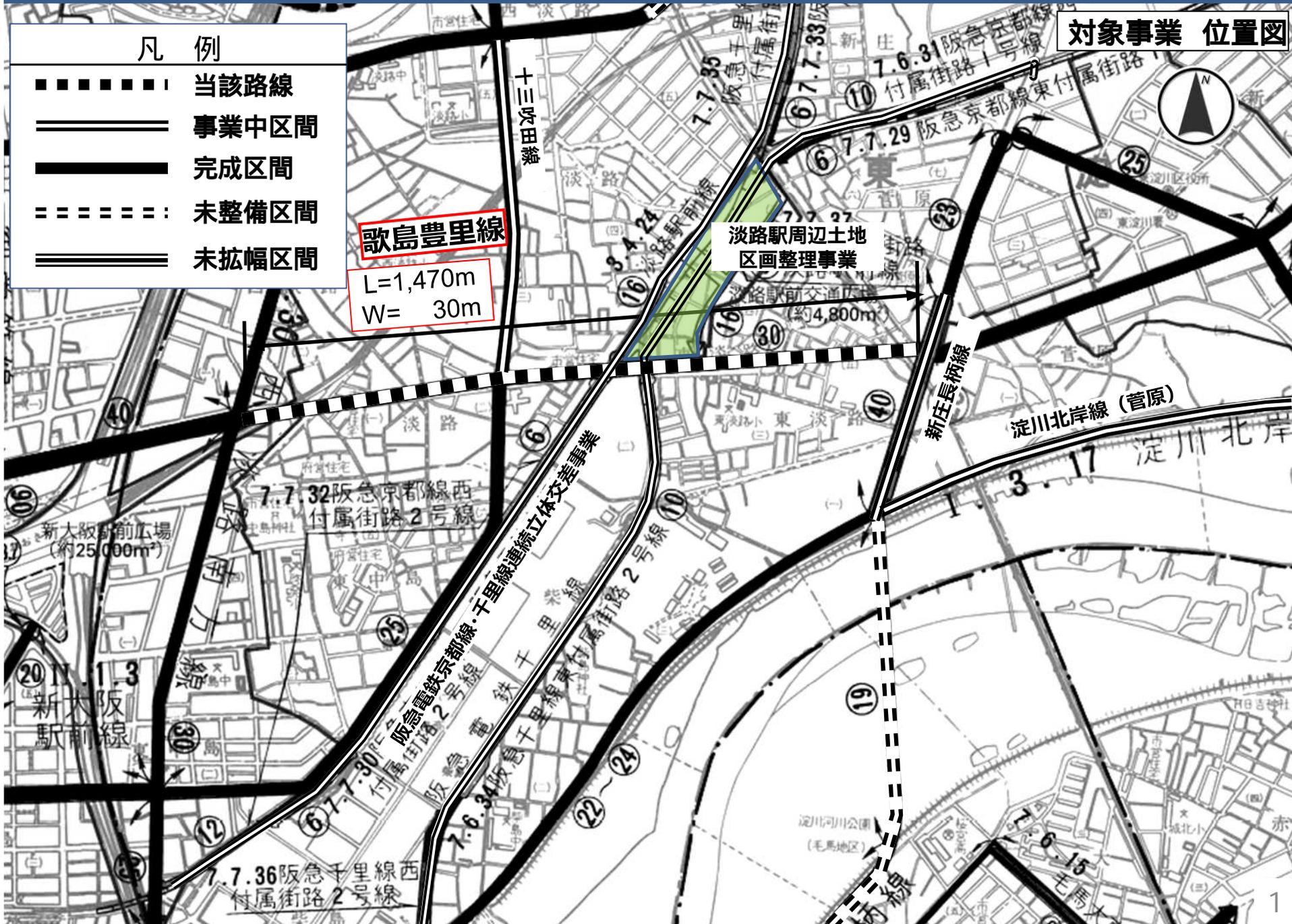


図1 位置図

(2 事業概要 所在地)

対象事業 位置図



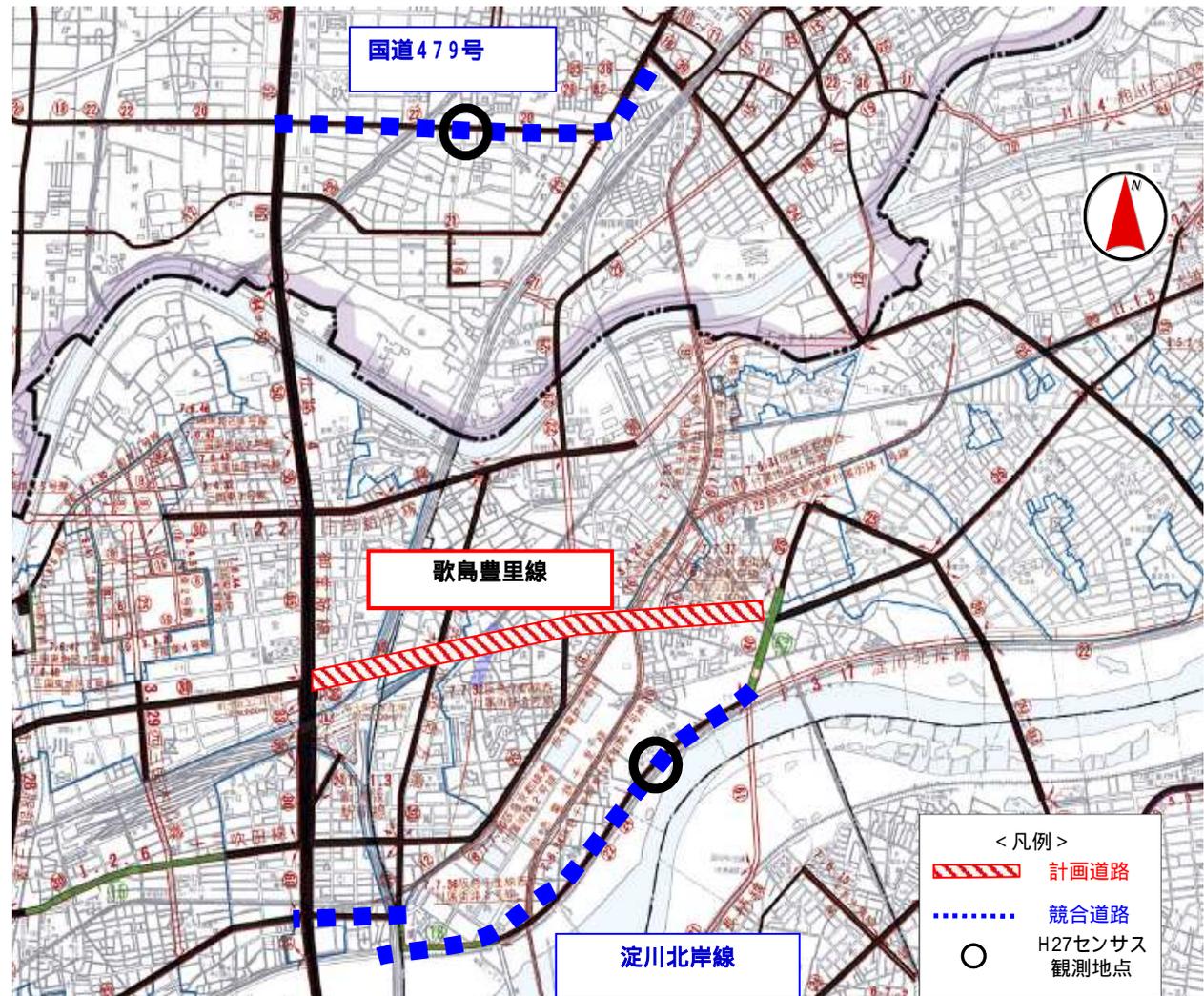
便益 (単位：億円)

走行時間短縮	116.0
走行経費減少	5.0
交通事故減少	-0.1
歩行者快適性向上	1.9
合計(初年度便益)	122.8
便益総額の 現在価値	1,653.1

費用 (単位：億円)

事業費 (単純合計)	247.4
維持管理費 (単純合計)	2.5
投資総額の 現在価値	599.8

社会費用便益比B/C	2.76
------------	------



注) 便益額、費用額については単位(億円)下一桁を四捨五入しているため、合計値の端数が合致しない場合もある。

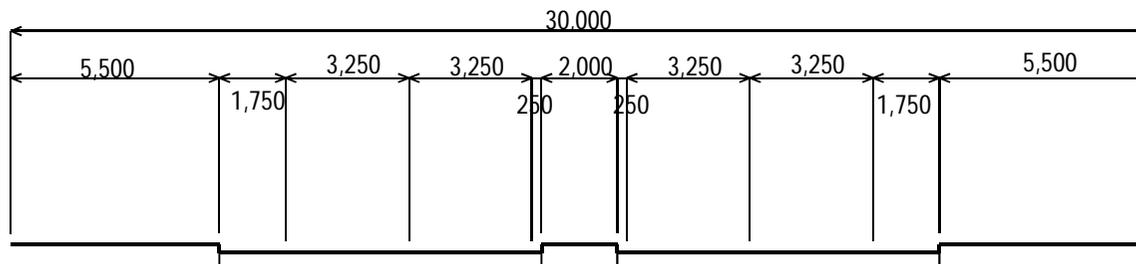
図 - 歌島豊里線と競合路線



歌島豊里線 事業中箇所 L=1,470m W=30m



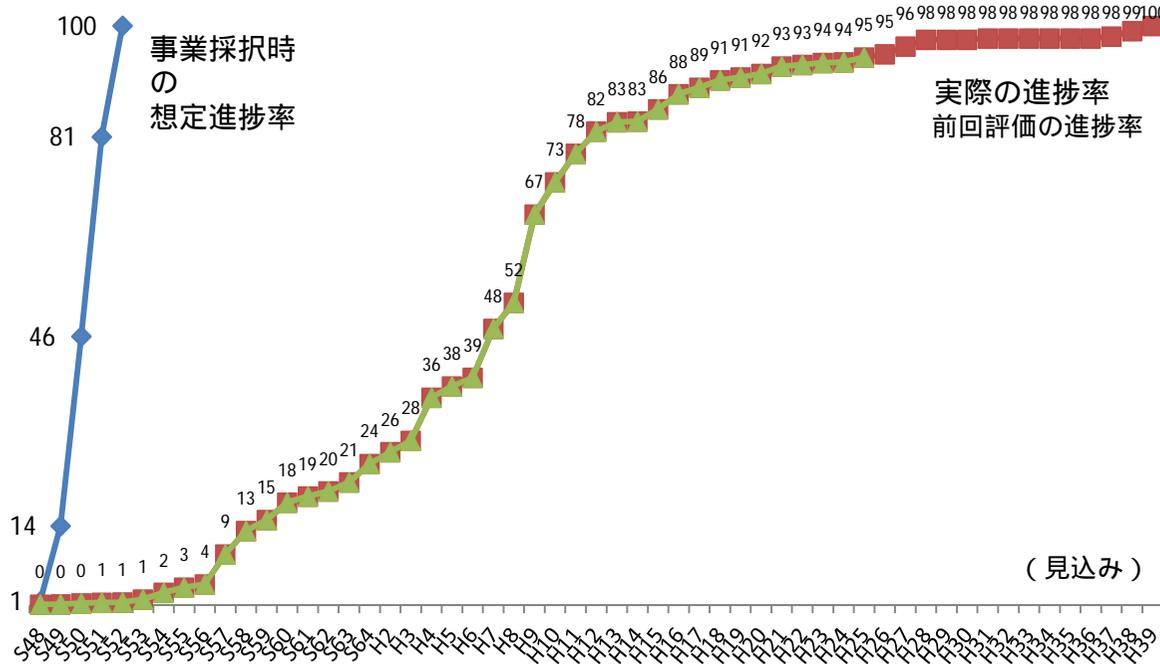
歌島豊里線 標準断面図



凡 例	
	用地取得済箇所
	整備済箇所
	残用地取得物件
	施工中箇所
	前回評価時(H25)からの進捗箇所

用地取得率：99% (面積ベース)
 工事進捗率：89% (面積ベース)
 事業費ベース進捗率：98%

進捗率の推移 (単位：%)



残事業の内容

- 用地取得 3件 (238㎡)
- 道路工事 (延長600m、面積18,045㎡)
- 残事業費約6億円

今後のスケジュール (見込み)

- 平成39年度 事業完了予定

事業が遅延した原因とその状況

- 用地取得において、近年の下落傾向にある土地価格での売買に難色を示されていることなどで、用地買収が難航し、事業が長期化していた。

対応と解消の目途及びその根拠

- 本路線は、用地取得の難航により事業が長期化していたが、用地取得の目途も立っており、局運営方針においても重点整備路線と位置付け、重点的に財源を確保している。そのため、用地取得が終われば集中的に工事を実施し、今年度での概成を見込んでいる。また、残る区間についても、連続立体交差事業の進捗に合わせ、平成39年度の完成を見込んでいる。